
咎とゼロ

榊

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

咎とゼロ

【Nコード】

N0323BA

【作者名】

榊

【あらすじ】

連載しようかと考えていた物ですが、一応短編として放置します。

（前書き）

設定

咎：男、髭の高身長。若い頃に別世界にトリップした。

ゼロ：女、過去に暗い過去を持つ少女。咎と共に様々な世界を旅している。

世界の空を黒く覆いそうな程、と言うのは言い過ぎかもしれないが、巨大な戦艦が一機宇宙を漂っていた。その戦艦の操縦室に居るのは長い白銀の髪を持つ少女一人である。蒼い瞳には光が無く、ただただ眼の前に広がる暗黒の宇宙を見つめている。

その空間に一人の男が入って来た、無精髭を生やした高身長、見るからに脳筋そうな男性である。その外見はどこぞの吸血鬼の零号解放時に酷似していると言っても良い程似ている。

『ゼロよお・・・俺は暇すぎて死にそうだぜえ』

『死ねばいいじゃないですか』

男の言葉に冷たく切り返すゼロと呼ばれた少女。

『冷たいねえ、おじさん泣いちゃう』

そう言っただけで笑う男、全く気にしている様子は無い。

『咎は、もうお仕事は終了したのですか？』

『植物プラントには何も被害は無かった、有ったとすれば兵器施設程度かな。まあ、あの戦火の中をこのおんぼろで切り抜けたんだ、不満はいえねえ』

そう、いくら巨大戦艦と言えどもこの戦艦は既に手負いなのだ。元々二人のモノではない強奪品であるし、此処まで良く持ってくれた

と言つべきであらう。ゼロはため息を吐くと咎と呼んだ男の方向を見た。

『次は、どの世界に行くのですか？』

『わかんねえなあ・・・何せワームホールは唐突にだからよ』

二人はこの世界の生まれ出は無く、別の次元から流れているのだ。此処で2人の紹介をしようと思う。

まずは咎と呼ばれる男、その男は元々普通に人間であつた。そうは行つてもトリップと言う別次元への介入を果たした人間の一人だ。彼は青年期に様々な戦場などに駆り出され、生きる為に敵を殺すと言つ事を覚えた身だ。知らぬうちに歳をとり、今では成人男性に成つた。普通の人間よりもトリップの関係上か歳を取りにくい体である。後、筋肉で力仕事担当。

そして、白銀の髪をもつ少女ゼロ、彼女は少女とも言えるが幼女とも言える体格をしている。長い髪は地面にまで付くほど伸びていて、彼女の思考や知識は恐ろしく深い。知識担当と言えるだろうか。無表情、無感情の彼女だが、それでも最初よりは喋るようになったと咎は語っている。年齢や産まれが不明で、名が無いのでゼロと勝手に呼ばれている。

そんな二人は宇宙を漂つてるのは、先ほどまで戦争に参加していたからだ。もちろん傭兵としてである。先に金を受け取り命がけで戦う。この世界には機械兵、人型の兵器が存在しており、ソレは厳しい戦いであつた。

この船は、敵陣に潜入した時に頂いて来たモノだ。

『さあ、開くぞ。世界の移動線が』

『・・・衝撃スタンバイ、吹き飛びますよ？咎』

瞬間、船体を激しい衝撃が襲った。周囲の機器が次々と壊れていく。船の制御はすぐに不能となり、後は船体に裂け目が出来ない事を祈るだけである。

長い衝撃が終わる、眼を開けると眩しいほどの光が眼を刺激した。先ほどまで宇宙空間に居た筈が、今では芝生の上で横に成っている。戦艦は、恐らく世界の狭間で消えてしまったのであろう、一緒に押しつぶされずに良かったと正直な感想が口から洩れる。

『・・・咎？』

何時もなら元気な声が聞こえるのだが、彼の声がしない。その事を不安に思ったゼロが周囲を見渡すが、やはりそこにはなにも無かった。あるのは彼が持ち歩いている音楽プレイヤーのみだ。まさか彼は、と思いゼロの顔が青ざめる。

『咎ぁ・・・！』

『よう！眼が覚めたかいお嬢さん！！』

ご機嫌な声が後ろから響いて来た。そこに立っていたのは咎である。その手には大量の果物と一頭のイノシイ、彼は素手なので恐らく素手で倒したのであろう。

『・・・！』

『ぬうお!?!』

ゼロの手から音楽プレイヤーが投げられ、ソレは彼の頬を掠める。
芝生の上に落ちたので恐らく壊れてはいないであろう。

『な、何しやがる!?!』

『当然の報い』

『俺何かしたか!?!』

そんな事を言いながらも彼はその手に持った果実を降ろす、コレだけあれば保存食にも出来るだろう。いくら大食いの咎とは言えども加減と言うモノを知っている。

『・・・お肉は今食べるの?』

『コレは保存用で良いだろう、此処がどのような世界かも解らんだし』

『・・・そうだね、また戦争かな』

『生き物有る所に戦火有りだ、悲しいけれどそれが生き物だよ』

そう言うのと梨の様な果実を齧った。

先ほど持って来た食材の中のモノを、ゼロは一個一個選別していく。

『何やってんだ?』

『コレは・・・毒』

『・・・殺気摘み食いしちまったよ』

『大丈夫、大量摂取しなければ多分』

『5本は少量かな・・・少量だよな？』

『・・・お墓は立てる？それとも私が骨粉にして持ち歩く？』

『俺はまだ元気です、はい』

そんな話をしながら空腹を満たす。一回の世界線移動でどうしてここまで腹が減るのであるかと考える筈に、当然の事だと割り切っているゼロ。

食事が終わると、ゼロは周囲の警戒を始め、様々な情報を得る事にした。地形の確認やゼロの持った特殊能力による空気中に含まれた科学の痕跡などを分析する。

『・・・此処から、南に行くと、普通に文明が発達した場所がある』

『マジかよ、俺は普通に北の山を登ってたぜ』

『脳筋は、何処まで行っても脳筋』

『うつせ！』

さて、彼と彼女が最初に出会う者は、誰だろうか。

（後書き）

多分、連載はしません。多分ですが・・・。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0323ba/>

咎とゼロ

2011年12月31日20時54分発行